

Startup Guide

スタートアップガイド

箱を開けてから本装置の初期設定を完了するまでの手順を説明します。このスタートアップガイドに従って作業してください。

856-126101-471-00 2007年5月 初版



© NEC Corporation 2007
NECの許可なく複製・改変などを行うことはできません。
このマニュアルは再生紙を使用しています。

重要 Express5800/FW500eでRAID構成の状態を確認するためにはESMPRO/ServerManagerを使用してください。MegaRAID Storage Manager™(以降MSMと略します)によるリモート管理機能は使用できません。なお、通常の運用においてMSMによるRAID構成の変更を行う必要はありません。

1 添付品を確認する

梱包箱を開け、添付品がそろっていることを確認してください。

- 本体
- 電源コード×2
- フロントベゼル
- セキュリティキー (フロントベゼルに貼り付けられています)
- Yケーブル(KB/MS用)
- ソフトウェアパッケージ式 (バックアップCD-ROM*1を含む)
- EXPRESSBUILDERパッケージ*2
- SystemGlobe DianaScope Additional Server Licence(1) (DianaScopeのライセンス)
- お客様登録申込書
- 保証書(本体梱包箱に貼り付けられています)
- 使用上のご注意
- スタートアップガイド(本書)

重要 添付のCD-ROMは、再セットアップの時に必要となりますので大切に保管しておいてください。

*1 バックアップCD-ROMの中には「ユーザーズガイド」や各種オンラインドキュメントも格納されています。ユーザーズガイドやオンラインドキュメントはAdobe Readerで閲覧できるPDFファイルです。

*2 EXPRESSBUILDERパッケージの内容についてはEXPRESSBUILDER内の添付品一覧を参照してください。

2 ユーザーズガイドを読む

ユーザーズガイドはバックアップCD-ROMの中に格納されています。ユーザーズガイドはAdobe Acrobat Readerで閲覧できるPDFファイルで、HTMLファイルから表示させることができます。

<バックアップCD-ROM>:manual.html

ユーザーズガイドでは、本装置を安全に取り扱うための注意事項やStartup Guideでは記載されていないセットアップに関する詳細な説明、運用やアップグレードに関する説明が記載されています。また、「故障かな?」と思ったときのトラブル回避の手段やサービスに関する情報も記載されています。本装置を取り扱う前にぜひお読みください。

ヒント PDFファイルを閲覧するためには、Adobe 日本語版が必要です。Adobe Readerはアドビ社のWebサイトから無償でダウンロードすることができます(<http://www.adobe.co.jp>)。



3 ラックを設置する

本体はEIA規格に適合した19型(インチ)ラックか、卓上に設置して使用します。ラックに設置する場合は、次の条件を守ってラックを設置してください。

重要 ラックの設置は必ず複数名で行ってください。

以下の環境条件を満たした場所

- <動作時>
 - 室内温度: 10℃~35℃*
 - 湿度: 20%~80%
 - 温度勾配: ±10℃/時
 - 気圧: 749~1040hpa
- <休止時>
 - 室内温度: 5℃~40℃*
 - 湿度: 10%~80%
 - 温度勾配: ±15℃/時
 - 気圧: 749~1040hpa

* 室内温度15℃~25℃の範囲が保てる場所での使用をお勧めします。

添付の電源コードが届く範囲にあるコンセントまたはUPS

AC100V、平行二極アース付きのコンセントまたはUPS

※ オプションにて200V対応可

水平でじょうぶな床の上

腐食性ガスの発生する環境で使用しない

前後1m以上、左右60cm以上、高さ40cm以上のスペースがとれる場所

複数のラックを設置するときは必ず連結させる

スタビライザを取り付ける

安全に関するご注意

装置をセットアップする前に「ユーザーズガイド」の「使用上のご注意 -必ずお読みください-」をお読みの上、注意事項を守って正しくセットアップしてください。

警告

- ぬれた手で電源プラグの抜き差しをしないでください。感電するおそれがあります。
- 内蔵型オプションの取り付け・取り外しは電源コードをコンセントから抜いて行ってください。
- 雷が降り出したらケーブル類を含め装置に触らないでください。落雷による感電のおそれがあります。
- 「ユーザーズガイド」に記載されている内容を除き、分解・修理・改造を行わないでください。

注意

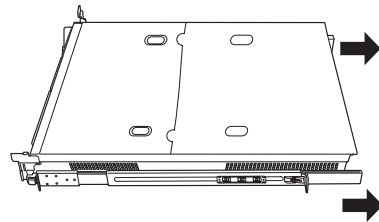
- 持ち運びの際は2人以上で装置の底面をしっかりと持って運んでください。
- 水、湿気、ほこり、油、煙の多い場所、また直射日光の当たる場所に設置しないでください。
- 装置に添付されている電源コード以外を使用しないでください。
- 電源コードは指定の電圧、コンセントに接続してください。
- 電源コードはタコ足配線にしないでください。

4 本体を取り付ける

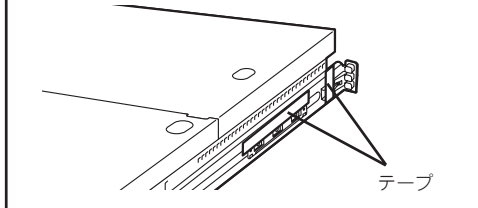
本体をラックに取り付けます。ユーザーズガイドの2章を参照してください。

重要 ラックの設置や本体の取り付けは必ず複数名で行ってください。

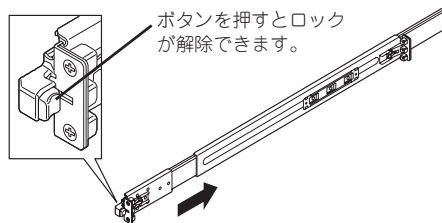
1 本体左右に取り付けられているスライド式のレールを取り外す。



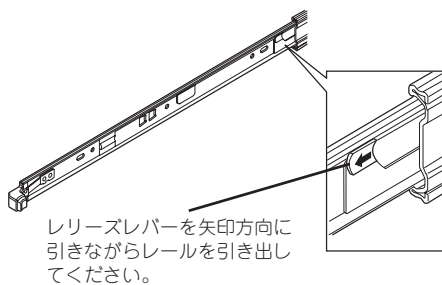
装置運搬時の脱落防止のために、工場出荷時にスライドレールは左右ともに背面側と側面がテープで固定されています。ラックへ取り付ける前に、テープをはがしてください。



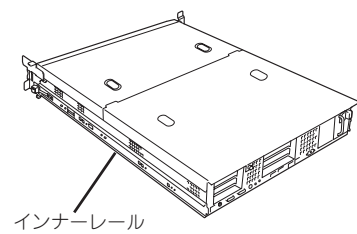
2 本体前面にあるロック解除ボタンを押しながら、レールを持ってゆっくりと装置後方へスライドさせる。



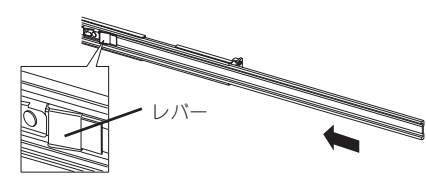
しばらくすると、「カチッ」とロックされます。本体側面にあるリリースレバーを矢印の方向に引き、ロックを解除しながら本体から取り外す。



レールアセンブリを取り外すと、本体にはネジで固定されたインナーレールのみが付いた状態となります。



取り外したレールアセンブリは、レバーを押しながら矢印方向へ動かし、もとに戻してください。

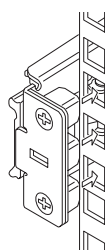


レールアセンブリは、取り外したインナーレールに再度取り付けます。どちら側のインナーレールから取り外したものがわかるように印を付けるなどして区別してください。複数の本装置を設置する際もどの装置のどちら側のインナーレールから取り外したものがわかるように区別してください。

レバーやレールで指を挟まないよう十分注意してください。

3 レールアセンブリの四角い突起を、19インチラックの角穴に入れて取り付ける。

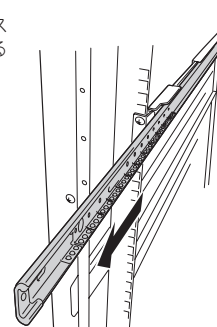
この時に「カチッ」と音がして、ロックされたことを確認してください。



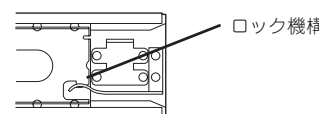
上図は右側(前面)を示していますが、右側(背面)、左側(前面/背面)も同様に取り付けてください。もう一方のレールを取り付ける時、すでに取り付けているレールアセンブリと同じ高さに取り付けることを確認してください。

前後に多少のガタツキがありますが、製品に支障はありません。レールアセンブリが確実にロックされて脱落しないことを確認してください。

4 左右のレールアセンブリのスライドレールをロックされるまで引き出す。

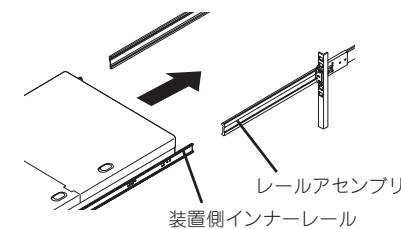


ロック機構が確実にロックしている事を確認してください。

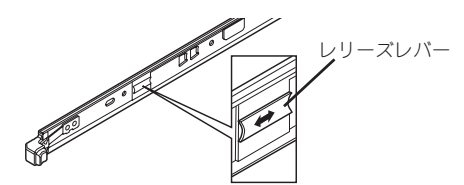


5 2人以上で本装置をしっかりと持ってラックへ取り付ける。

本装置側面のインナーレールをラックに取り付けたレールアセンブリに確実に差し込んでからゆっくりと静かに押し込みます。



途中で本装置がロックされたら、側面にあるリリースレバー(左右にあります)を手前または、奥に押しながらゆっくりと押し込みます。



完全に装置を押し込むと装置前面のロックがかかり装置を固定できます。

レバーやレールで指を挟まないよう十分注意してください。

差し込む時、インナーレールの両側をまっすぐ挿入してください。

設置時は、左右のつまみを持ってゆっくりと確認しながら取り付けてください。

初めての取り付けでは各機構部品がなじんでいないため押し込むときに強い摩擦を感じることがありますが、製品に支障はありません。

差し込みが不完全ですと、片側のレールが押し込み時に途中で止まる場合があります。その場合一度装置をロックがかかるまで完全に手前に引き出してください。左右のロックが完全にかかったのを確認してから、その後左右のロックを解除させて再び装置を押し込んでください。

6 本装置を何度かラックから引き出したり、押し込んだりしてスライドの動作に問題がないことを確認する。

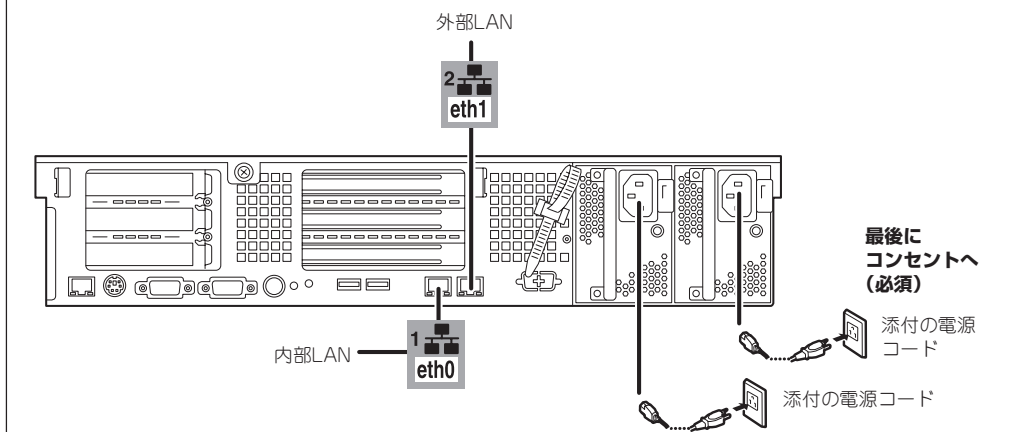
ラック内の他装置と隣接する位置に本装置を取り付ける際は、他装置と本装置の筐体が干渉していないことを確認してください。もし干渉している場合は、他装置と干渉しないよう調整してレールアセンブリを取り付け直してください。

スライドレール部分の動作を確認してください。スライドレールがラックのフレームに当たり、引き出せない場合は、スライドレールを取り付け直してください。

以上で完了です。

5 ケーブルを接続する

本体背面にLANケーブルを接続した後、添付の電源コードを接続します。ユーザーズガイドの2章を参照してください。



重要 システムが割り振るLANポート番号はハードウェアの構成によって可変します。この後のシステムのセットアップの際に間違わないよう注意してください。

- 標準装備のときは、1番がLAN No.1、2番がLAN No.2
- オプションのネットワークインタフェースカード(NIC)を装着しているときは、ユーザーズガイドの3章「2.システムのセットアップ」-「ネットワークインタフェースとCPU増設の設定」を参照してください。

ステップ6以降では、一体型構成のセットアップの流れを説明します。「二重化分散構成」を構築する場合は、ステップ7の後、ユーザーズガイドの4章を参照してください。

引き続きシステムのセットアップをします。裏面をご覧ください。

6 インストール/初期導入設定用ディスクを作成する

本装置をFirewallとして運用するために最低限必要となる設定情報が保存されたディスクを作成します。添付の「インストール/初期導入設定用ディスク」とWindows XP/2000、またはWindows NT 4.0、Windows Me/98が動作するコンピュータを用意してください。詳しくはユーザーズガイドの3章「1. インストール/初期導入設定用ディスクによる設定」を参照してください。

- 1 Windowsマシンを起動し、添付の「インストール/初期導入設定用ディスク」をフロッピーディスクドライブにセットする。

インストール/初期導入設定用ディスクはライトプロテクトされていない状態にしてください。

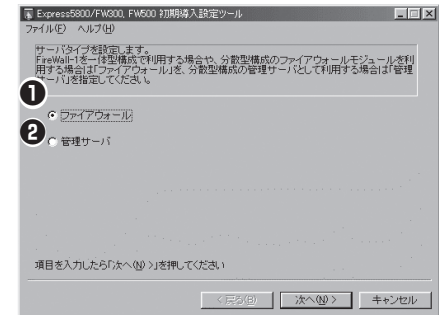
- 2 フロッピーディスクドライブ内の「初期導入設定ツール(StartupConf.exe)」を起動する。

初期導入設定ツールが起動します。ツールはウィザード形式で進みます。入力した内容が間違っている場合は、警告メッセージに従って入力内容を確認・修正してください。

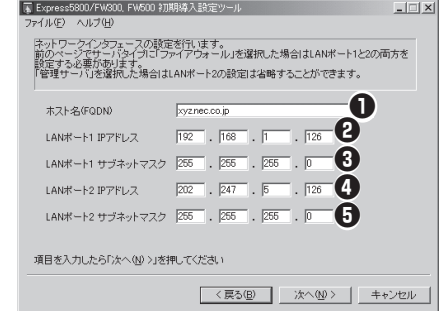
- 3 [次へ]をクリックする。

- 4 Firewallの種類を選択する。

- 1 ファイアウォールとして運用するとき
- 2 管理サーバとして運用するとき(二重化構成時)



- 5 ネットワークの設定をする。



- 1～3は設定必須の項目です。4と5は、4で「ファイアウォール」を選択した場合に設定が必要となります。

7 初期導入設定情報をロードする

インストール/初期導入設定用ディスクの内容を本体にロードして初期セットアップをします。詳しくはユーザーズガイドの3章「1. インストール/初期導入設定用ディスクによる設定」を参照してください。インストール/初期導入設定用ディスクは再セットアップの際にも使用します。セットアップの完了後も大切に保管してください。

- 1 ステップ6で作成したインストール/初期導入設定用ディスクがライトプロテクトされていないことを確認して、本体のフロッピーディスクドライブにセットする。

- 2 本体の電源をONにする。

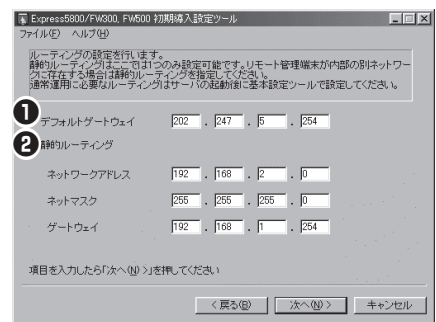
セットアップを開始します。2～3分ほどで完了します。

- 3 フロッピーディスクドライブのアクセスランプが消灯していることを確認して、インストール/初期導入設定用ディスクを取り出す。

セットアップに失敗した場合は、自動的に電源がOFF(POWERランプ消灯)になります。その場合は、Windowsの「メモ帳」などを使ってインストール/初期導入設定用ディスクに書き出されるログファイル「logging.txt」を開いてエラーメッセージを確認し、トラブルの解決を試みてください。エラーメッセージの意味については、ユーザーズガイドの3章「1. インストール/初期導入設定用ディスクによる設定」を参照してください。

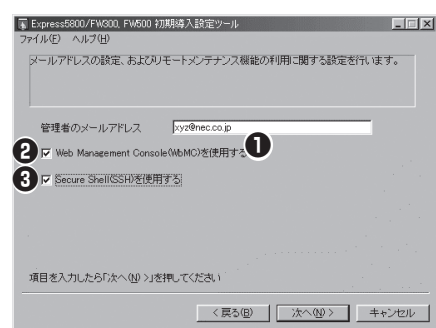
- 6 ルーティングを設定する。

- 1は設定必須の項目です。



- 7 管理者のメールアドレスとリモートメンテナンスの設定をする。

- 1は設定必須の項目です。



- 8 Web Management Console(WbMC)に関する設定をする(任意)。

WbMCを使用してシステムに接続する場合に設定します。パスワードの入力の際は、タイプミスのないように注意して入力してください。

- 9 セキュアシェル(SSH)に関する設定をする(任意)。

SSHを使用してシステムに接続する場合に設定します。パスワードの入力の際は、タイプミスのないように注意して入力してください。

すべての入力が完了したら、設定した内容がインストール/初期導入設定用ディスクに書き込まれます。設定完了のメッセージが表示されるまでフロッピーディスクドライブから取り出さないでください。

7 初期導入設定情報をロードする

インストール/初期導入設定用ディスクの内容を本体にロードして初期セットアップをします。詳しくはユーザーズガイドの3章「1. インストール/初期導入設定用ディスクによる設定」を参照してください。インストール/初期導入設定用ディスクは再セットアップの際にも使用します。セットアップの完了後も大切に保管してください。

- 1 ステップ6で作成したインストール/初期導入設定用ディスクがライトプロテクトされていないことを確認して、本体のフロッピーディスクドライブにセットする。

- 2 本体の電源をONにする。

セットアップを開始します。2～3分ほどで完了します。

- 3 フロッピーディスクドライブのアクセスランプが消灯していることを確認して、インストール/初期導入設定用ディスクを取り出す。

セットアップに失敗した場合は、自動的に電源がOFF(POWERランプ消灯)になります。その場合は、Windowsの「メモ帳」などを使ってインストール/初期導入設定用ディスクに書き出されるログファイル「logging.txt」を開いてエラーメッセージを確認し、トラブルの解決を試みてください。エラーメッセージの意味については、ユーザーズガイドの3章「1. インストール/初期導入設定用ディスクによる設定」を参照してください。

8 システムにログインする

管理クライアントからシステムへの接続には3つの方法があります。接続に関する詳細は、3章「1. インストール/初期導入設定用ディスクによる設定」を参照してください。

- セキュアシェル(SSH)を使用する

- 1 SSHのクライアントソフトを用意する。

- 2 管理クライアントと本体背面にあるLANポート(内部ネットワーク用)をクロスケーブルで接続するか、本体が接続されている内部ネットワークのハブなどに管理クライアントのLANケーブルを接続する。

- 3 ステップ6のSSHに関する設定で入力した管理者アカウント名とパスワードを入力し、ログインする。

- 4 ログイン後、rootユーザに変更する。

su -
Password:

本体に添付の「rootパスワード」に書かれているパスワードを使用します。

- Web Management Console(WbMC)を使用する

- 1 本体と同じ内部ネットワークにある管理クライアントを起動する。

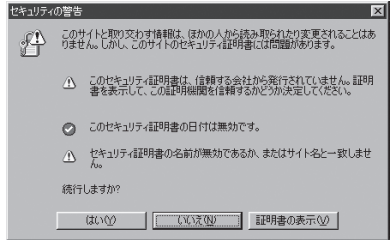
- 2 管理クライアントからWebブラウザを起動する。

WebブラウザはInternet Explorer 5以上を使用してください。

- 3 URLに「https://nnn.nnn.nnn.nnn:18000/」と入力する。

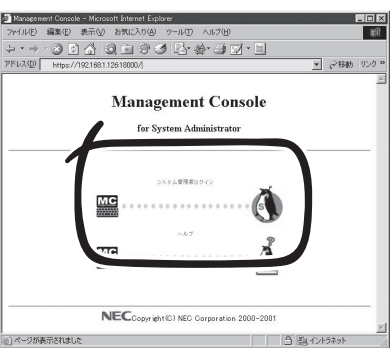
nnn.nnn.nnn.nnnは本体の内部ネットワークに割り当てたIPアドレスです。

- 4 セキュリティの警告画面で[はい]をクリックする。



- 5 ステップ6のWbMCに関する設定で入力した管理者アカウント名とパスワードを入力し、ログインする。

- 6 [システム管理者ログイン]をクリックする。



- コンソールを使用する

「ユーザーズガイド」の3章を参照してください。

9 システムのセットアップをする

「インストール/初期導入設定用ディスク」を使ったセットアップを行った後、基本設定ツール(fwsetup)を使用して、Firewallとしての詳細なセットアップを行います。ここでは、SSHを使用した手順について説明します。詳しくは、ユーザーズガイドの3章を参照してください。二重化構成を構築する場合は、4章も併せて参照してください。ネットワークインタフェースやCPUを増設した場合は、fwsetupを実行する前にユーザーズガイドを参照し、設定を行ってください。

fwsetupを起動します。

fwsetup

fwsetupでは以下の項目が設定可能です。

★印の項目はインストール/初期導入設定用ディスクにて設定済みの項目のため、設定内容を確認後、必要に応じて、それぞれの値を設定/変更してください。

[★] サーバ種別(server type)

[★] ホスト名(hostname)

[★] インタフェース(interface address、netmask、mtu)

[] ネームサーバ(nameserver)

[★] 管理者メールアドレス(administrator e-mail address)

[★] メールゲートウェイ(mail gateway)

[★] デフォルトゲートウェイ(default gateway)

[★] 静的ルーティング(static routing)

[] TRAP送信先ホスト(trap sink host)

[] NTPサーバ(NTP server)

[] ログ保持期間(log file rotation)

10 FireWall-1のコンフィグレーションをする

FireWall-1付属のコンフィグレーションツール(cpconfig)を使用してFireWall-1のコンフィグレーションを行います。二重化構成の場合は、4章を参照してください。

ファイアウォールにログインし、rootユーザに変更後、cpconfigを実行して以下の項目を設定してください。

cpconfig

- 1 <Enter>キーを入力後、使用許諾書を読み、承認した場合、<y>を入力する。

- 2 "Please select one of the following options"にて「(2) Check Point UTM.」を選択する。

- 3 "Please specify the Check Point UTM Product type"にて「(3) SmartCenter UTM and VPN-1 UTM Gateway.」を選択する。

- 4 "Do you want to add licenses"にて<y>を選択し、<m>入力後、ライセンス情報を投入する。

- 5 "Do you want to add an administrator"にて<y>を選択し、管理者名とパスワードを入力する。

- 6 "Do you want to add a GUI Client"にて<y>を選択し、管理クライアントのIPアドレスを入力する(複数設定する場合は、改行して複数行入力する)。

- 7 設定完了後、<Ctrl>-<D>を入力し、<y>を入力する。

- 8 管理クライアントの設定が正しければ、「Is this correct"にて<y>を入力する。

- 9 "Please specify group name"にてGroupの設定を行わない場合は、<Enter>キーを入力する。

- 10 "Is this ok"にて設定を終了する場合は、<y>を入力する。

- 11 "Do you want to save it to a file"にてGUIクライアント接続時、接続したFireWall-1が正しいものであるかどうかを確認するための文字列が表示されるため、保存する場合は<y>、保存しない場合は<n>を入力する。

- 12 "Do you want to reboot"にて<y>を入力し、再起動する。

再起動後、FireWall-1のデフォルトフィルタが有効になり、SSHやWbMCでの接続ができなくなります。

11 セキュリティポリシーをセットアップする

セキュリティ機能をセットアップする「SmartDashboard」をWindows XP/2000/2003で動作する管理クライアントにインストールし、ポリシーを作成します。詳しくは、ユーザーズガイドの3章「3 セキュリティポリシーのセットアップ」を参照してください。

インストールには、添付の「Check Point NGX」CD-ROMを使用します。

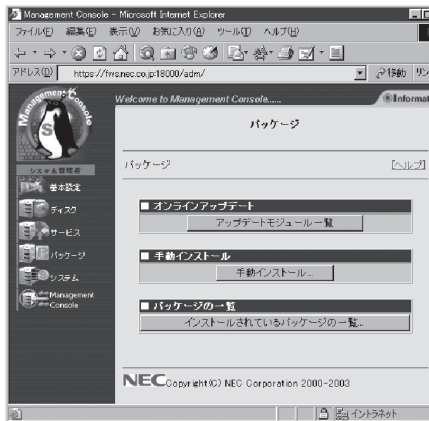
12 バックアップを取得する

fwbackupコマンドを使用してセキュリティポリシーなどのバックアップを取得します。詳しくは、ユーザーズガイドの3章「4 バックアップ」を参照してください。

```
# cpstop ----- バックアップを取得する際は、Firewallの運用を一時停止する必要があります。
# fwbackup ----- フロッピーディスクを用意し、コマンドの指示に従ってください。
# cpstart ----- Firewallの運用を開始します。
```

13 オンラインアップデートでシステムをアップデートする

本装置のシステムを最新の状態にアップデートします(購入時のシステムバージョンによってはアップデートをする必要がない場合もあります)。詳しくはユーザーズガイドの3章「5. オンラインアップデート」を参照してください。



14 残りのタスクを完了させる

ユーザーズガイドの5章を参照して以下のタスクを完了させてください。

- ESMPRO/ServerAgentのセットアップ
- 管理コンピュータのセットアップ

以上で完了です。